

伊勢市のシティプロモーションを考えるワークショップ(平成28年度 第2回) 結果概要

<日 時>平成28年11月30日(水) 18時30分~20時30分

<場 所>伊勢市観光文化会館 4階 大会議室

<参加者>8名

<テーマ>

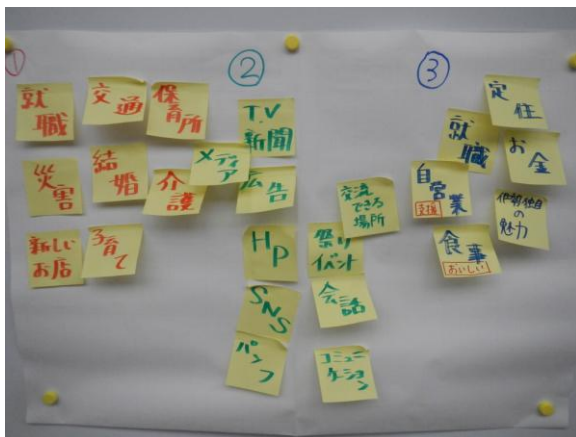
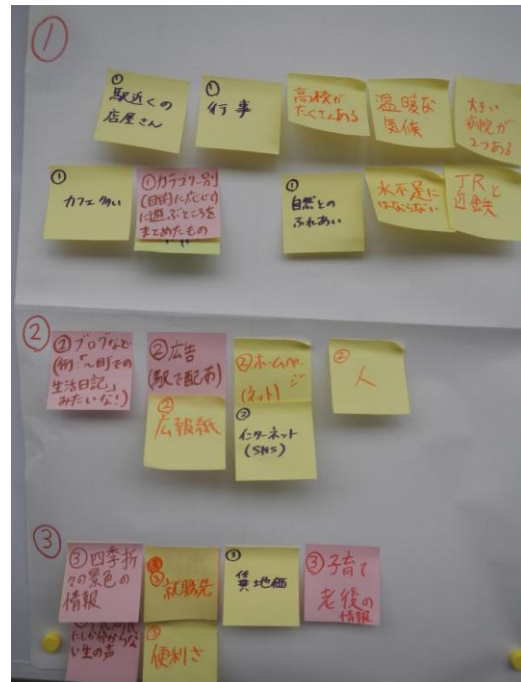
伊勢市の地元住民の目線で、「(1)伊勢市での生活に有用な情報、(2)その情報を得る手段、(3)Iターン・Uターンを呼び込む情報発信」を考える。また、今年度版の『伊勢市 移住・Uターン応援ガイド』を材料に、その来年度版の内容・デザインを考える。

<ファシリテーター>

皇學館大学文学部准教授 岡野裕行氏

第1部概要

2つのグループに分かれて、(1)伊勢市での生活に有用な情報、(2)その情報を得る手段、(3)Iターン・Uターンを呼び込む情報発信 について意見交換・発表を行った。



(主な発表内容)

移住やUターンを考えるとき、まずは仕事の情報が大切だと思う。生活に役立つ情報として、避難所や避難行動などの防災、介護や子育て施設、結婚や出会いの場、おいしいお店などの情報があると良い。

情報を伝えるしくみとして、祭りやイベントのようなたくさんの方が集まる場での会話やコミュニケーションが大切だと思う。

遊びやデートのプランの情報があると良い。また、横輪桜が好きで横輪町に移住した人がいると聞いたことがある。市民や町民しか知らないローカル情報で伊勢市への移住に関心を持ってもらえるのでは。

カフェやレストランなどのカテゴリ別に情報があれば便利だと思う。情報を得る手段としては口コミが多いように感じる。

伊勢市にはイベントや行事がたくさんあり、自然も魅力。移住を考えると、土地や賃貸物件の値段を参考に思うので、そういった情報を提供することも大切だと思う。

就職、交通、介護、防災などの情報は生活するために役立つと思う。また、東北のある地域に造られた津波防波堤について、地元の人々はいらないと思っているという声を聞いた。地元の本当の声を伝えることが大切。

水が美味しいことは大きな魅力だと思う。情報発信の手段としては、人から人の口コミを大切にしたい。移住を検討するときは、就職、土地、病院、スーパー、コンビニなどの情報が必要になると思う。

メディアを通じた情報発信だけでなく、祭りやイベントといった場での交流も大切。移住先を検討するとき、例えば鳥羽市の住宅新築支援のように、お金の面のメリットがあることも一つの要因になると思う。

(ファシリテーターまとめ)

人の一生に関する情報、伊勢市を楽しむための情報の両方があると良い。移住は就職や結婚がきっかけになることが多いと思われるが、自分自身も知らない土地で実際にまちを歩いてみたときに安心感を得られたという経験がある。移住を考える人、移住してきた人に対して、地元の人しか知らない情報をどう伝えていくかが課題。

第2部概要

今年度作成した『伊勢市 移住・Uターン応援ガイド』を材料に、来年度版の内容やデザインの検討に向けた意見交換・発表を行った。



(主な発表内容)

- ◇ 全体的に情報量が多いと感じる。例えば伊勢フットボールヴィレッジを大きく取り上げるなど、情報を取捨選択しても良いと思う
- ◇ 伊勢市を知らない人にとっては、表紙の写真がどこなのか分からない。冒頭のインタビュー記事では、仕事の話、実際に支援メニューを活用した話をしてもらおうと、移住を考える人の参考になると思う。
- ◇ 伊勢市には色々な地域があるので、地域別に情報を発信するのも面白いと思う。
- ◇ 写真から実際の様子が伝わりにくい。写真の大きさや明るさなどの見せ方に工夫が必要だと思う。
- ◇ 伊勢市での生活をイメージしやすいものとするため、四季折々のイベント、道路や駅前の様子、生活に焦点を当てたインタビュー記事などを掲載すると良いと思う。
- ◇ 伊勢市では「いかにお店が充実しているか」を強調すると面白いと思う。住民のおススメのお店を具体的に示すことができないか。
- ◇ 文字と写真のバランス、写真の画質を改善することで、読みやすさが向上すると思う。伊勢市の四季を伝える写真を掲載すると一年がイメージしやすくなると思う。
- ◇ 表紙の写真は春夏秋冬の四枚とする、キャッチコピーは「母になるなら流山市」のような目に留まるものを考える、また、支援メニューを実際に活用した人の話を掲載すると良いと思う。

アンケートまとめ

Q. 今日のワークショップで一番印象に残ったことを教えてください。

- ◆ 伊勢市は観光地としてのイメージが強く、移住・Uターンした人にとっての生活面でのメリットはあまり目立ったものがないように感じた。
- ◆ 移住・Uターン応援ガイドは、観光よりも住む人の目線で作成するのが大切ということが、今日のワークショップの参加者の共通認識のように感じた。

- ◆ 自分は伊勢に暮らしているのに、制度やしくみを知らないと思った。
- ◆ 移住・Uターン応援ガイドを初めて見て、観光ガイドのように感じる場所が多くあった。また、写真の撮り方をもっと工夫すべきだと感じた。
- ◆ 自分なりの意見と考え方がしっかりしており、堂々と発言する大学生の姿勢は本当に素晴らしい。市職員も自ら積極的に進んで参加する姿勢も尊敬に値すると思う。
- ◆ 伊勢市に住んでいても気が付かなかったことに気付いたり、他の場所に住んでいる人の視点に立てたり、新しい見方ができた。
- ◆ 他の人の意見、特に市職員でない人の意見を聞いたことが良かった。大学生の意見には感化されることが多いと感じた。
- ◆ 情報発信手段について、ツールとしてインターネットや SNS を使うということは皆分かっているけど、「自分にぴったりの情報を得る方法」が分かっていないのではないかと感じた。インターネットや SNS を使うことは当たり前として、その先を考えることが課題であると思う。

Q. 今日のワークショップに参加して感じたことを教えてください。

- ◆ 若い方との意見交換は刺激になった。このような場にもっと多くの職員が参加すれば良いと思う。
- ◆ 実際に伊勢市に住む人がどのような思いを抱いているのか、主に市のマイナス面を中心に共有できたことが特に良かった。そのマイナス面をカバーするプラス面をこのようなワークショップを通じて今後も再発見、創造できれば良いと感じた。
- ◆ 伊勢に住んでいるのに伊勢のことが分からない状態で、自分の無知さに悲しくなったが、他の方と意見交換することで伊勢について考えることができた。
- ◆ 初めてワークショップに参加したが、どのような意見が出るのか楽しみだった。自分の視点と似た意見もあれば、自分が見落としている視点もあった。メモに書くことは、文字にすることで見えてくることもあり、良い方法だと感じた。
- ◆ 積極的にいろいろな意見が出たことに驚いた。自分では考えつかないようなアイデア等々、この貴重な資源は大切にしていかなければいけないと思う。
- ◆ 知らないことが多くあったが、新たな発見ができてとても良かった。伊勢市に来た人、それ以外の人との話し合いもできれば、より多様な意見が出るのではないかと感じる。
- ◆ 市職員として、市職員でない人と話す機会があること自体、意義があると感じた。もっとこのような場を設けたら良いと思った。
- ◆ 今回は私も含めて伊勢に長く住んでいる人が多く、外から見た伊勢を考えることが少し困難だったように思う。「ほどほどで」と考えると、特にこれといった不満なく生活できていると言える。しかし、「より良い伊勢」を目指して発展を続けられれば、県外の人たちにとっても魅力あふれる場所になっていくと思う。

以上